

日本テレビホールディングス株式会社

2025 年 11 月 18 日

『所さんの目がテン！』 自然との共生を目指す「かがくの里」

建築家・隈研吾氏設計の母屋が ついに完成



日本テレビホールディングス株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長執行役員 福田博之、以下「当社」)は、番組『所さんの目がテン！』を通じて、2015年から茨城県常陸太田市「かがくの里」で 里山再生に取り組んでおります。

「かがくの里 母屋建築プロジェクト」は、番組に 建築家の隈研吾氏(株式会社隈研吾建築都市設計事務所・東京大学特別教授・名誉教授)が出演(2022 年「木組みの科学」)した際に、かがくの里の母屋の設計をオファーしたことでスタートしました。

2025 年秋にその母屋が完成し、『所さんの目がテン！』では 11 月 16 日(日)放送から 6 週連続で 所ジョージさんが現地を訪れ、里の恵みを味わう収穫祭の様子を交えながら、これまでの母屋建設プロジェクトの取り組みを振り返って参ります。

《お問い合わせ先》日本テレビホールディングス株式会社 総務・人事管理局 サステナビリティ事務局 TEL:0570-040-040(代表)



当社は、サステナビリティポリシー重要課題の3つ「地球環境への貢献」「未来を豊かにする情報発信」「快適な暮らしのサポート」を推進させていくため、今回の『所さんの目がテン！』での里山再生活動を通じ 生物多様性保全の理解促進を行います。



🌐 地球環境への貢献

📺 未来を豊かにする情報発信

💖 快適な暮らしのサポート

【『所さんの目がテン！』とは】

日本テレビ系列(一部地域除く <https://www.ntv.co.jp/megaten/network/>)で 1989 年から放送している、身近なテーマを科学の視点からアプローチする教育番組で、今年 10 月で 36 年目を迎えた。

所ジョージ氏がメインキャスターを務め、視聴者に対して 科学的な視点から身近なテーマをわかりやすく解説。

- 放送日時 : 毎週日曜日 朝 7:00 - 7:30
- 番組公式 WEB サイト : <https://www.ntv.co.jp/megaten/>
- 番組公式 X : https://x.com/megaten_ntv
- 番組公式 Instagram : https://instagram.com/megaten_ntv

【里山再生プロジェクト「かがくの里」とは】

2015 年に『所さんの目がテン！』の長期実験企画として始まり、科学者の専門的知見と地域住民の協力で里山を再生させるプロジェクト。茨城県常陸太田市にある約 2000 坪の広大な土地を 科学の力と地域住民の協力で再生し、自然との共生を目指す。

この場所は、環境省の「自然共生サイト」にも認定されており、生物多様性の保全に努めています。

《お問い合わせ先》日本テレビホールディングス株式会社 総務・人事管理局 サステナビリティ事務局 TEL:0570-040-040(代表)

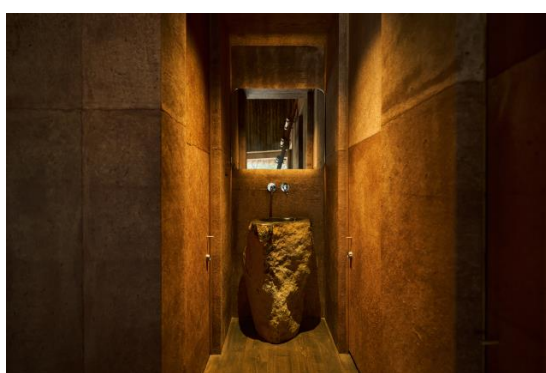
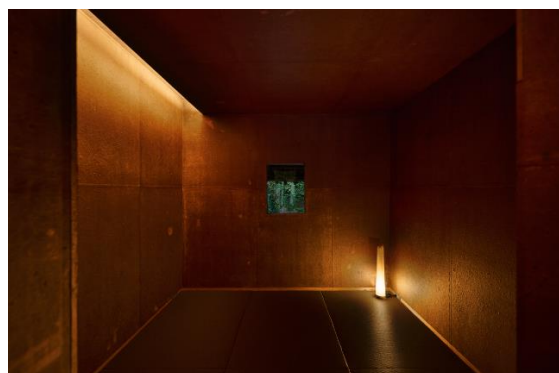
【「かがくの里」に建設した母屋の特徴】



「かがくの里母屋建築プロジェクト」の設計は、別の放送回にご出演頂いた隈研吾氏に依頼し スタートしました。外観は、日本の里山を象徴する茅葺きの民家をイメージしたデザインを採用し、茅葺き屋根の茅や骨組みの木材などの建材は、かがくの里の周辺の地域資源を使用しています。また、施工も地元の大工 に依頼しており、伝統的な建築技術と最新の技術が融合した、里山の知恵や資源循環を体現する建築となっています。

隈氏のこだわりが詰まった、母屋の1番の特徴は、自然に風で捲れたようなカーブを描く緩やかな円形デザインの茅葺き屋根。里山文化の象徴である茅葺き屋根は、古くなった部分を刻んで堆肥にするなど、循環型の資源活用を促すだけでなく、多様な生き物の棲み処となり、里山全体の生物多様性を支える役割も果たします。

円形の屋根を実現するため、28本の垂木を1本1本3Dスキャンでデータ化し、それを元に職人が棟木にピッタリとはまるように加工することで、独創的なカーブを描く屋根の骨組みが完成しました。茅葺きの作業は、国選定重要伝統的建造物群保存地区に指定される大内宿（福島県）の茅葺き職人を招き、5000束の茅を丁寧に刈り込み、美しく絶妙なカーブを描く屋根を作り上げました。



内装には、土などを叩いて圧縮し、固める“たたき”という昔ながらの工法で仕上げた土間を採用。材料には、かがくの里で採れた土を使用しました。また、壁紙には茨城県の無形文化財にも登録されている手漉き和紙を使い、渋柿の実を搾った汁を発酵熟成させた、抗菌作用のある柿渋を塗って仕上げるなど、昔ながらの里山の知恵が随所に見られるものになっています。（撮影：澤木 亮介）

【建設に関わった隈研吾氏の想い】



日本テレビ系の番組「所さんの目がテン！」の企画として、数年にわたり取り組んできた「かがくの里」の母屋プロジェクトは、ぼくにとって、現代における「人と里山の新たな関係」を問い直す、重要な場となっています。

ぼくたちが目指したものは、単に美しい茅葺きの建築を設計することではありません。里山という固有の場所から生まれた木材を使い、熟練の職人の手仕事を通して、その場所の生態系と資源循環に組み込まれるような建築を作ることでした。

母屋は、里の周辺木材を利用した丸太の大架構によって支えられ、土や茅といった素材と共に、里山の資源循環の核として機能します。地域材の調達、伝統的な技術と現代の技術を融合させた丸太組みのプロセス、そして母屋を取り巻く、かがくの里の資源循環と生物多様性のネットワークまで、壮大なプロジェクトの構想がこの新しい小さな母屋に詰まっています。日本の豊かな里山材が持つ力と、それによって生まれる持続可能な暮らしの形について、皆様と共に深く考えるきっかけになることを願っています。

【所ジョージ氏 母屋に関してのコメント】



番組で隈研吾さん設計の家を建てることになって、デザイン画を見せて貰って、とてもワクワクした。

構想から2年。建ちあがった茅葺き屋根の母屋を見て、ほれぼれした。屋根から、柱から、壁から、土間から、全てがもう素敵だよね。里の周辺のものを使って造っているのに、すごく未来な感じだよね。

例えばキレイに並べられた屋根の丸太だけど、裏山に自然に生えていた木に人間が手を加えると、こんな素敵な愛でるものになる。人が手を加えなかったら、それは「森」なの。それが自然なのだけど、人が手を加えて、「暮らし“が入った自然”が、私は一番好き。こうやって整えたら、「人が自然の中に入れる」ってことの証明ですね。

この家に居ると、地球の中にいる感じがする。昔からの技法を今もやっていることに、逆に未来を感じる。

東京でさ、没入型のイベントとか、いろんなとこに行くじゃない？比じゃないね、こっちだろ。ここに感動が詰まっていて、すごいね。そもそも、楽しい事、嬉しい事を望んで、未来に向かっていてるわけで、昔のものでも、それが気持ち良ければ、そこが未来という事です。

隈さん、そして永和工務店の親方はじめ、建設に携わってくれた皆さん、ありがとうございます。

©日本テレビ

以上